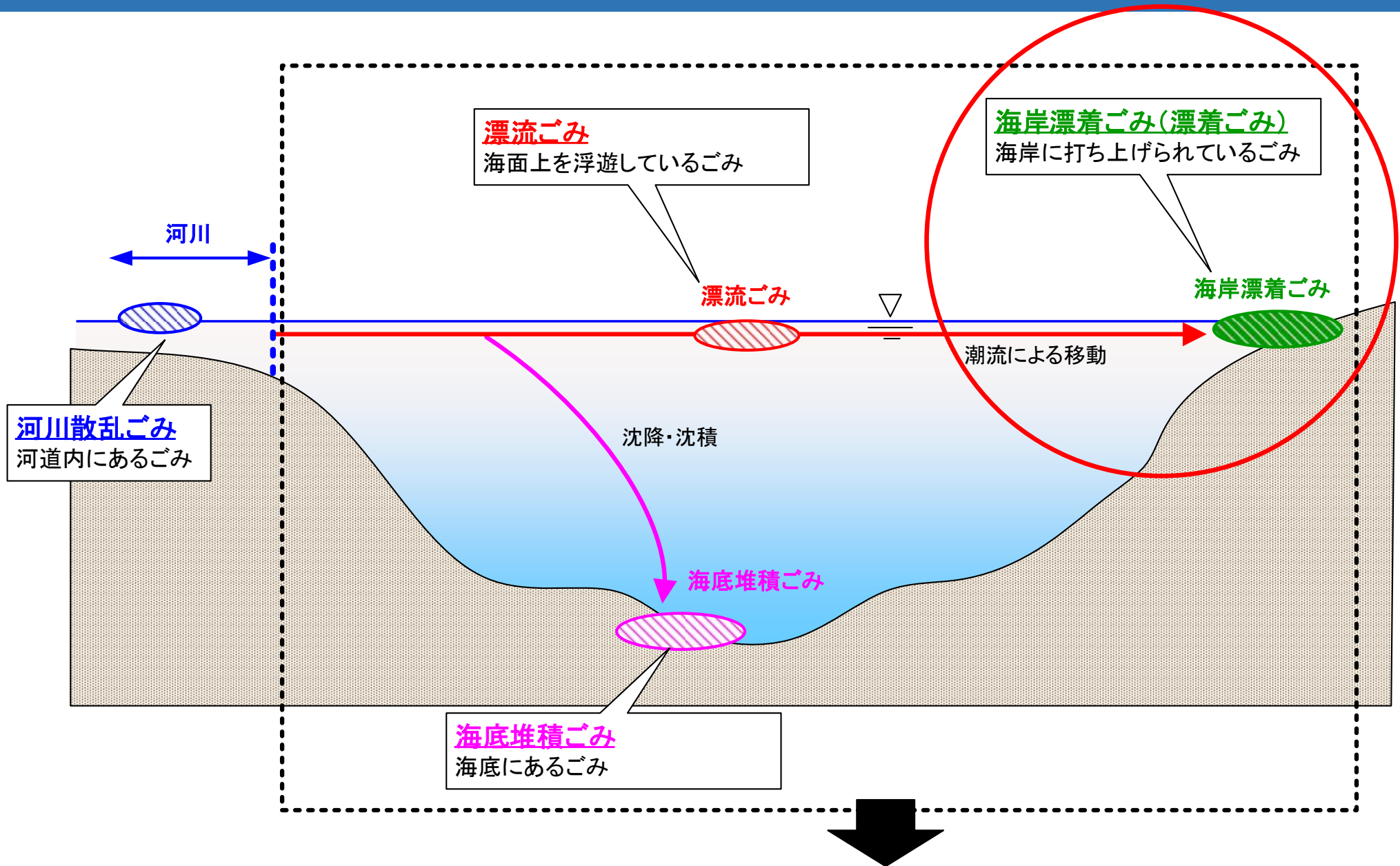


簡単にできる海岸漂着ごみの調査方法



海ごみの種類



これらを総称して「海ごみ」とする。

調査対象

◎調査対象とするもの（人工系ごみ）

- ・レジ袋
- ・ペットボトル
- ・缶、ビン
- ・発泡スチロール
- ・カキ養殖パイプ 等



◎調査対象としないもの（自然系ごみ）

- ・流木
- ・流竹
- ・海草
- ・海藻類 等



調査準備（調査に必要な物）

◎調査用紙

⇒調査結果や気づいたことを記入する

◎カメラ

⇒海岸の状況を記録する

○メジャー等（長さを測るもの）

⇒調査範囲を確認する場合

○電卓

⇒ごみ袋量、かさ容量を計算

調査日時

◎定期的な清掃の前に、満潮時を避けて調査を実施



※海岸漂着ごみは、多くが満潮線かそれより上にある。
⇒干潮時でなくても、満潮時を避ければ調査誤差は
ほとんど無い。

調査方法

「水辺の散乱ごみ指標評価手法(海岸版)」
に準拠した方法

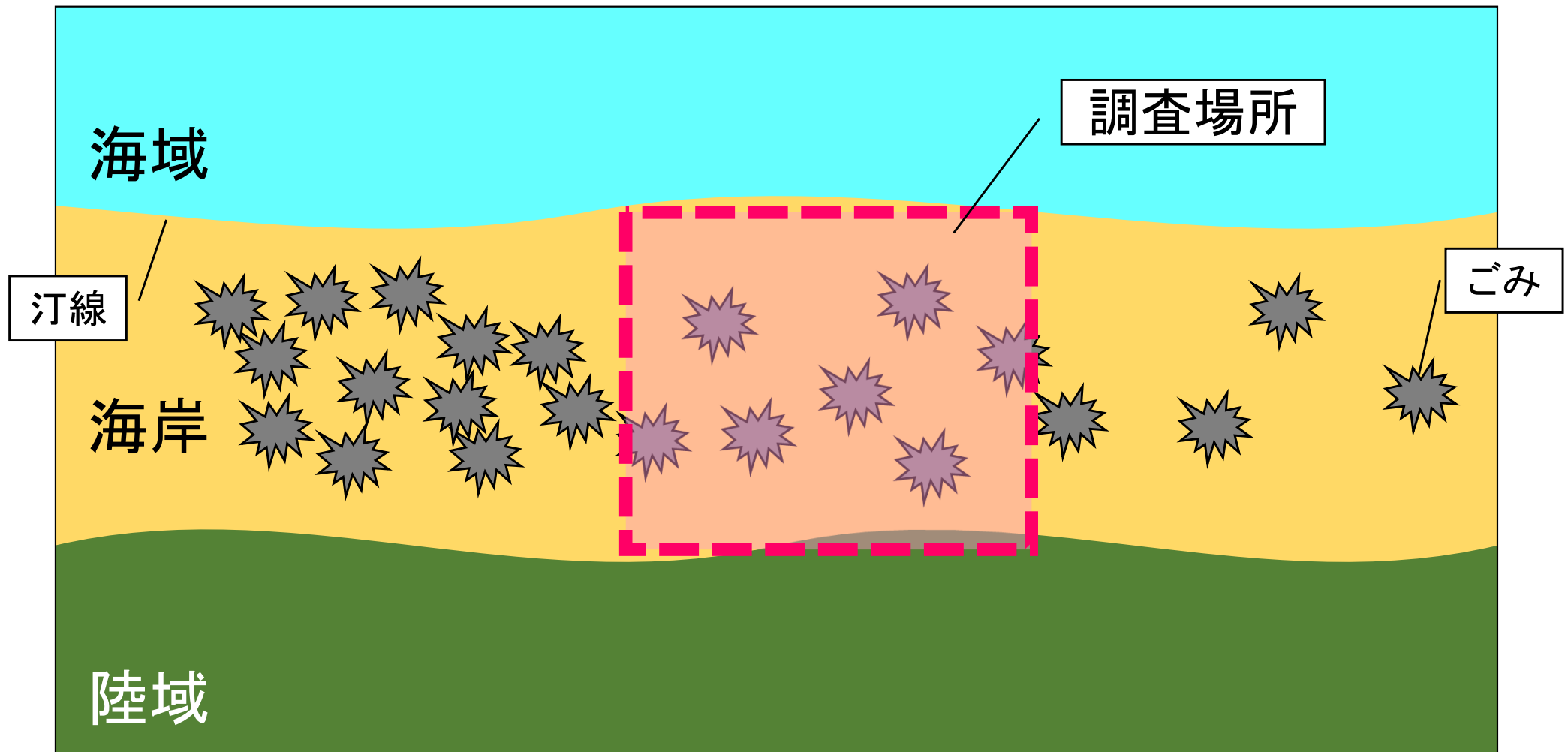
水辺の散乱ごみ指標評価手法(海岸版):

国土交通省東北地方整備局, JEAN/クリーンアップ全国事務局, 特定
非営利法人パートナーシップオフィスが2004年に協働で開発した手法

調査方法（調査場所の選定）

◎調査海岸の中で代表的（平均的）な場所を選定

○調査海岸をひとつと見わたし、ごみ（人工系）の量が平均的な場所を調査場所として選定する。



調査方法(海岸状況の写真撮影)

◎海岸状況の写真撮影する。

○海岸状況を記録し、以降の調査で比較材料とする

写真撮影 事例 A

奥行きがある海岸
(砂浜)

4方向の撮影



写真撮影 事例 B

奥行きがない海岸
(砂浜)

3方向の撮影



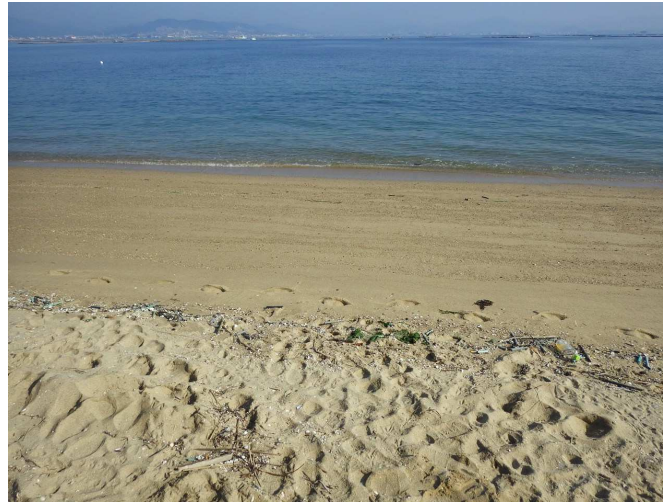
※「水辺の散乱ごみ指標評価手法(海岸版)」より抜粋

調査方法(海岸状況の写真撮影例)

○4方向撮影した場合の撮影例 前: 海域



左



右

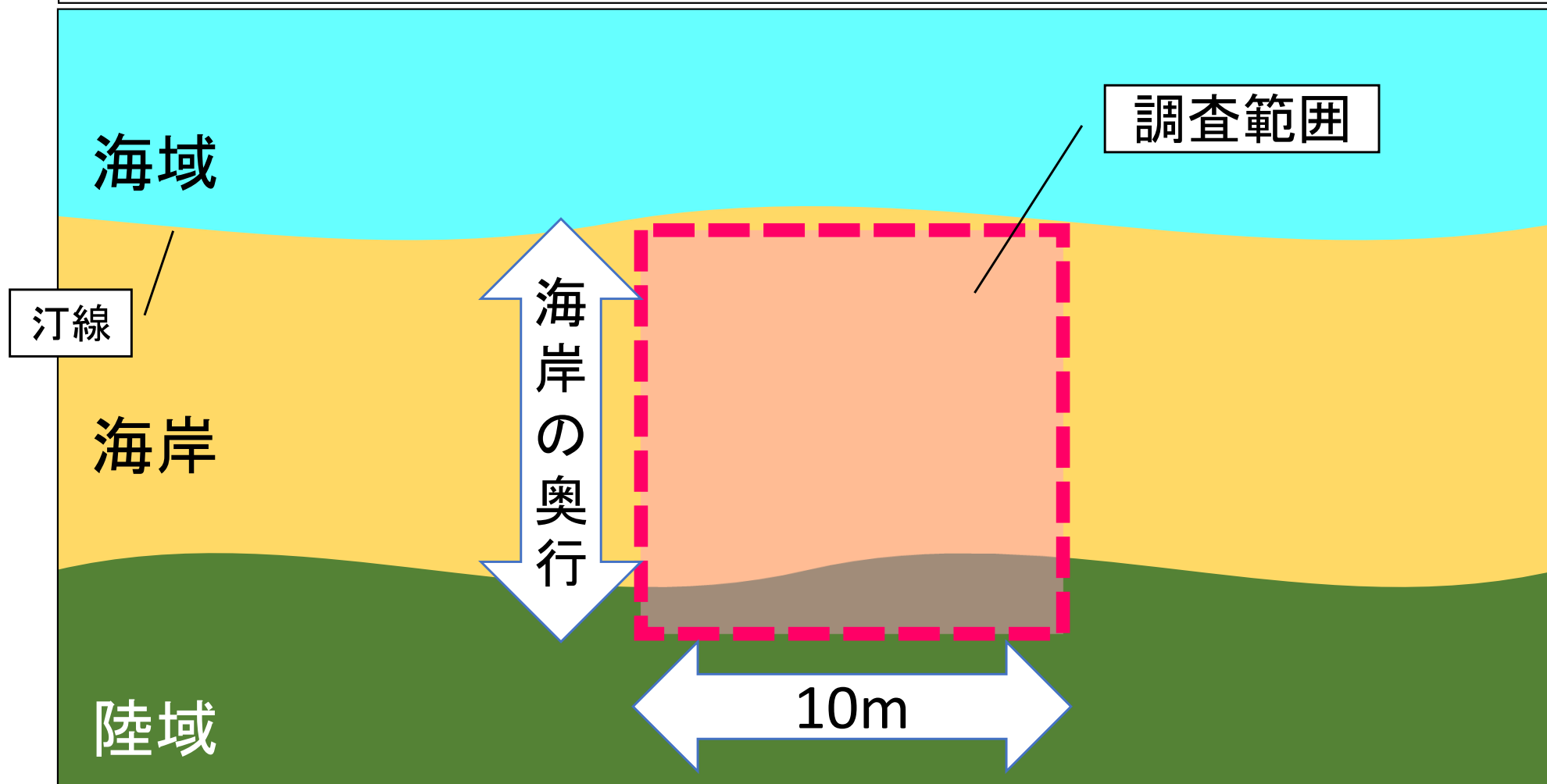
- ・カメラを少し下へ傾けて撮影
(写真上部に地平線が写る程度)



後: 陸域

調査方法(調査の実施)

○目視により、海岸線延長10m×海岸の奥行の範囲にある漂着ごみを回収したと想定
(陸域は海岸から見える範囲まで対象とする)
⇒ごみ袋(20ℓ)の数量や、かさ容量を推計



調査方法（評価ランクの判定）

評価ランク：
0,T,1～10までの
12段階

○海岸線延長10m×
海岸の奥行の範囲
のごみ袋(20ℓ)の数量、かさ容量を推計

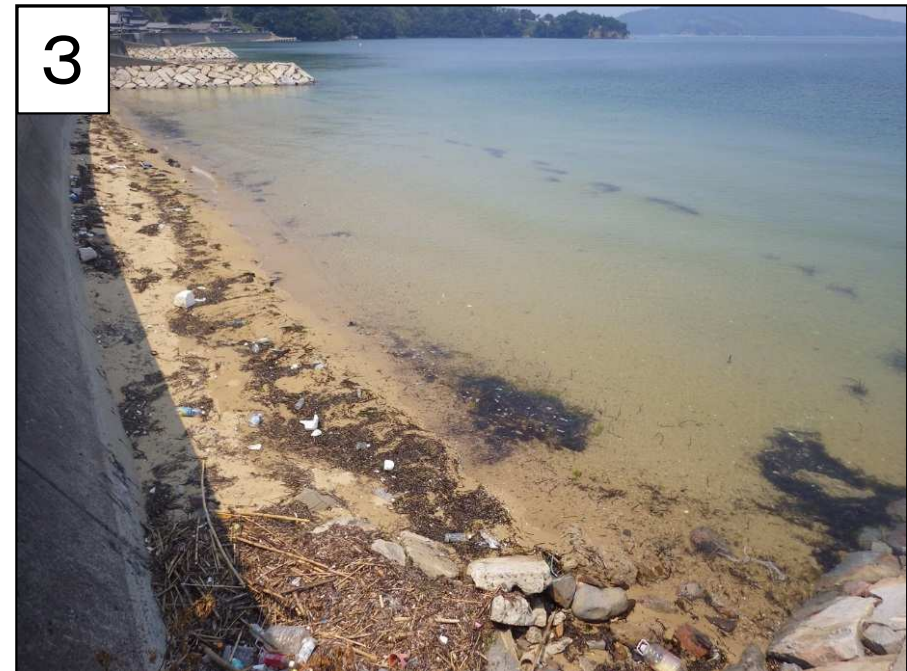


○対応表と比較して
評価ランクを判定

ごみ袋数、かさ容量と評価ランクの対応表

ランク	ゴミ袋(20ℓ)の 数量(袋)	回収した際のゴミの かさ容量の表現として	かさ容量 (ℓ)
0	0袋	(自然物を除いて) 全くゴミがない	0
T	約1／8袋	2.0Lペットボトルが1本程度 500mLペットボトルが3～4本程度	2.5
1	約1／4袋	2.0Lのペットボトルが2本分程度	5
2	約1／2袋	2.0Lのペットボトルが4本程度 200～350mLの飲料缶が15本程度	10
3	約1袋	2.0Lのペットボトルが8本程度 200～350mLの飲料缶が30本程度 ポリタンクならば1本分程度	20
4	約2袋	2.0Lのペットボトルが16本程度 ポリタンクならば2本分程度	40
5	約4袋	2.0Lのペットボトルが32本程度 みかん箱ならば3箱分程度	80
6	約8袋	ドラム缶が1本分未満程度	160
7	約16袋	ドラム缶が1.5本分未満程度	320
8	約32袋	ドラム缶が3.0本分未満程度	640
9	約64袋	一立方メートル程度	1,280
10	約128袋	軽トラで一台分程度	2,560

調査方法(各評価ランク海岸例)



調査方法(各評価ランク海岸例)



調査方法（発泡スチロール製フロート）

◎発泡スチロール製フロートある場合は別途カウント

- ・非常に大きい（直径65cm前後、高さ1m前後の円柱形）
⇒代表的な場所（海岸線延長10m）でのカウントは困難
- ・かさ容量：約350ℓ

○調査海岸全体のフロート数を計数し、海岸線延長10mあたりのフロート数に換算



○海岸線延長10mあたりの数から、かさ容量を推計



○その他のごみ容量と合わせて対応表と比較し、評価ランクを判定



調査方法（評価ランク判定例）

発泡スチロール製フロート以外のごみ（人工系）：
海岸線延長10mあたりのごみのかさ容量約15ℓ

+

発泡スチロール製フロート：
海岸線延長500mの海岸にフロートが5個

↓

海岸線延長10mあたり0.1個⇒かさ容量約35ℓ



海岸線延長10mあたりのごみのかさ容量約50ℓ

↓

評価ランク対応表と比較⇒評価ランクは「4」と判定

まとめ

調査場所の選定



海岸状況の写真撮影



調査の実施

- ①発泡スチロール製フロート以外のごみ(人工系):
海岸線延長10m×奥行のごみ(人工系)量(20ℓ袋数、かさ容量)の推計
- ②発泡スチロール製フロート:
海岸全体の発泡スチロール製フロート数から海岸線延長10mあたりのかさ容量を推計



評価ランクの判定